

2012年3月期 第1四半期決算IR説明会(2011/7/29開催)

質疑応答内容

- Q: 機械の説明で、下期に自動車の回復を見込んでいるという話だったが、ロシアや中南米等の自動車事業の業績と足元の状況について教えてほしい。
- A: ロシアの自動車事業については、震災の影響が一番の懸念であったが、想定よりも早く回復軌道に乗っている。中南米、特にベネズエラの自動車事業については、自動車需要の強さに支えられ堅調に推移。昨年の通貨切り下げの影響を価格転嫁により吸収できたことに加え、操業も安定しており、漸く軌道に乗ってきた。従い、第1四半期の自動車事業の業績は順調で、通期を通して自動車事業の改善が期待できる状況になってきたと見ている。
- Q: 生活産業の業績が良かったが、タイの肥料事業の足元の状況と今後の見通しについて教えてほしい。
- A: 生活産業の肥料事業については、タイにおいて販売価格規制が行われていたが、販売価格の上限見直しが実現した。これにより、当初懸念していた収益見通しに一定の目処がたつのではないかと見ている。
- Q: 第1四半期の営業利益実績は対通期見通し比24%の進捗となっているが、この進捗をどのように見ているか？また、震災の影響▲50億円を期初に予想していたが、現時点でどのように見ているか？
- A: 売上高、売上総利益、営業利益については概ね予想通りの進捗。また、当初見込んでいた震災の影響▲50億円については、個々の事業の見通しが少しずつ改善方向にあることから、少しでも影響をミニマイズしていければと考えている。
- Q: 生活産業のうち、第1四半期好調だった木材取引が、第2四半期以降は調整に入ると説明だったが、もう少し具体的に教えてほしい。
- A: 木材取引は、第1四半期に輸入合板の強い需要に支えられ好調に推移したが、在庫も積み上がっていることから第2四半期以降は軟化してきている傾向にあり、第1四半期ほど強い環境で業績が進捗するとは見ていない。
- Q: 為替換算調整勘定が円安によってプラスになったという説明だったが、足元では円が強くなっており、この影響が自己資本にどれだけ出てくるのか教えてほしい。
- A: 自己資本に対するインパクトは、米ドル以外の通貨も影響していることから一概には難しいが、ドル円ベースでは、1円動くと自己資本で12億円程度の影響が出るのではないかと見ている。
- Q: エネルギー・金属のうち、石油事業および石炭事業の足元の状況について教えてほしい。
- A: 石油事業については油価上昇の影響もあり足元堅調に推移。石炭事業については第1四半期に豪州の豪雨の影響があったものの、これはほぼ想定通りであり、第2四半期から確実に回復してくると見ている。
- Q: 第1四半期に好調だった化学品・機能素材の今後の見方について教えてほしい。

- A: 化学品・機能素材の今後の見方については、アジアのマーケット次第と見ている。グローバルで見た場合、中国の成長鈍化が若干気になるが、それを除き、欧米の財政問題で大きな振動が出ないことを前提で申し上げれば、一定の収益は確保出来ていくと見ている。
- Q: 今期の新規投融資は 700~800 億円を計画しているが、第 1 四半期の実績と年間の見通しについて教えてほしい。
- A: 新規投融資の第 1 四半期実績は約 140 億円。今期年間見通しについては、期初の計画を変えていない。
- Q: 特別利益で保有船の売却益、海外鉄鋼関連株式の売却益などを計上しているが、これにより収益は通期で上振れてくるのか。
- A: 第 1 四半期に特別利益を計上している一方で、選択と集中に伴う損失が発生する可能性がある。但し、現状において特段大きな損失はないと考えている。

以上